

訪問看護ステーション 連絡協議会だより

第23号

発行年月 2012年2月
 発行所 岡山県訪問看護ステーション
 連絡協議会
 ☎700-0805 岡山市北区兵団4-39
 岡山県看護研修センター3階
 TEL086-238-6688・FAX086-238-6681
<http://okayama.houmonkango.net/>
 E-mail okayama@space.ocn.ne.jp
 発行責任者 山谷 富美枝

ごあいさつ

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会
会長 山谷 富美枝



皆様方にはつつがなく、健やかな新春を迎えられたことと思います。昨年からは、研修センター3階にある協議会事務局に人と机が増えていることに気づいてくださっていますか？。看護協会が県から委託を受けた「訪問看護推進事業」の担当者として、県医師会から委託を受けた「訪問看護支援事業（コールセンター）」の担当者たちが、情報交換しながら新規事業に取り組んでいます。岡山県の医師会、看護協会、連絡協議会のコラボレーションで生まれたことが皆様の所に配達されていきます。それをどう使うかは受け取った皆様次第です。少子・超高齢・多死社会を迎える2025年の課題解決に、訪問看護師たちが期待されています。私たちが看護職が受け身ではなく、一歩前に踏み出し連携していくことです。日常の中でしっかりと気づき、考え、行動し、振り返ることの繰り返しですが自分の看護体験を豊かにしてくれると思います。

自分育て、人育ては人とかかわりの中でできていくのではないのでしょうか。

昨年は忘れてはならない年となりました。大震災・原発事故が起きた被災地、被災された多くの方たちに、私たちが思いを寄せ続けることもひとつの支援です。日常生活が送れていることに感謝し、今年が穏やかで平和な年でありますように、そして皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

「訪問看護コールセンターおかやま」を開設して

岡山県訪問看護ステーション連絡協議会副会長、岡山県医師会理事 木村 丹

昨年9月1日に、岡山県医師会、訪問看護ST連絡協議会、県保健福祉部長寿社会課が協働で標記のコールセンターを開設しました。現在、岡山県を含め日本全体の訪問看護は十分に活性化されているとは言えません。この電話相談が活性化に繋がると期待しており、看護師 徳永さんの多大な努力により徐々に成果が見えてきています。電話相談件数は、9月18件(26)、10月15件(25)、11月11件(17)、12月14件(18)、計58(86)、()は延べ回数、そのうち15件は新規訪問看護に結び付きました。連絡元は、介護保険関係機関(居宅介護支援センター、地域包括支援センター、GHなど)、訪問看護ST、医療機関の3機関からが多く、家族・本人からの相談は多いとは言えません。県内5つの保健医療圏では県南東部が70%以上を占めます。相談内容には複雑な事務作業に関するものもあり苦慮することもあります。できる限り詳細に調べて丁寧に回答するよう努力しています。とりあえずは電話相談を増やすことを当面の最大の目標として、さまざまな会合でのPR活動にも力を注いでいるところです。今後は一般の人々の利用、また県南東部以外の医療圏からの相談が少ないことを考慮して広報を努めなければならない、と考えています。

余談ですが、岡山県内5つの保健医療圏を県南2、県中・北部3と大きくふたつに分け、ST数・訪問看護職員数と人口・面積との関係を算出してみました。中北部では、県南に比べST1か所・訪問看護師1人あたりの人口は若干少ないものの、受持つ面積は5～6倍の広さがあり移動に長時間を要し特に冬季の積雪時には多大な困難さを伴う事が伺われました。

	ST 1ヵ所あたりの人口と面積		訪問看護師 1人あたりの人口と面積	
県南2保健医療圏	19,884人	37.0km ²	5,323人	9.9km ²
県南東部、県南西部の2保健医療圏	人口 1,630,526人、面積 3,030km ² 、ST数 82、常勤換算訪問看護職員数 326.3人			
県中・北部3医療圏	14,687人	185.7km ²	4,773人	60.4km ²
高梁・新見、真庭、津山・英田の3保健医療圏	人口 323,129人、面積 4,086 km ² 、ST数 22、常勤換算訪問看護職員数 75.7人			

新設の ステーション紹介

訪問看護ステーション あおぞら

管理者 森本 恭子

平成23年6月に赤磐市のうえの内科小児科医院に併設して開業した「訪問看護ステーションあおぞら」です。平成18年みなし指定の訪問看護を看護師一人ですたうとして、5年がかりでスタッフ4人のステーションに成長しました。この間多くの地域の方々から多大のご支援をいただきました。

赤磐市の旧山陽町、旧熊山町地域で在宅医療と介護をつないで地域の方に、安心して心がホッとする療養生活を送っていただくことを目標に日々の業務を行っています。いろいろな苦労もありますが、いつもどこまでも広がる青い空のように清々しく、利用者さんの心に届くケアを提供できるように、スタッフみんなががんばります。

今後どうかよろしくお願ひします。

ステーションからのリレーだより

「頼りにされる看護師を目指して…」

児島訪問看護サービスセンター 管理者 木崎 礼子

私達の事業所が担当している児島地区は海と山に囲まれ瀬戸大橋が一望できる場所にあります。又、ジーンズの発祥の地、繊維の街です。その為か、女性の就職率が高く、介護者でありながらお仕事をされている方が多くいらっしゃいます。その土地で訪問看護を始めてはや15年が過ぎようとしておりますが、当初は「訪問看護ってどんなことをしてくれるの?」と、なかなか理解していただけなかった訪問看護もだんだん周知されるようになり、医療依存度の高い方も、在宅で家族と過ごせる方が増えてきています。とはいえ私たちの在宅時間は1～2時間、その他の時間は介護者の方の負担ですが、皆さん明るく前向きな方ばかりで、私たちが励まされ、人生勉強させていただくことばかりです。これからも少しでも利用者、介護者の方に頼りにしていただけるような訪問看護師を目指して頑張っていきたいと思っております。

「私のステーション像」

阿新虹の訪問看護ステーション 管理者 須藤 美帆

昨年9月より、当訪問看護ステーション管理者になりました。これまで前管理者の大きな羽の下で、毎日楽しく訪問看護をしていた私にとって、管理・運営は高いハードルとなっています。当ステーションは、内科診療所と併設のため、在宅での看取りの依頼もあり、少ないスタッフながら取り組んでいることが、特色の一つといえます。昨年は4名の方の看取りをさせていただきました。休日や夜間の訪問など大変な思いをすることもありますが、住み慣れた家で愛する家族に見守られながら頑張られた利用者様、「家で過ごしたい」という願いを叶えるべく、不安を抱えながらも一生懸命に介護され、最期を迎えたときには、悲しみながらも「家で見てあげられて良かった」と、どこか晴れ晴れとしたご家族の顔を見ると、微力ながらもお手伝いできたことを嬉しく思います。利用者様とご家族に寄り添い、一緒に人生の最期を迎える準備のできるステーションにしていきたいと思っております。

「利用者の声」

安心をいただいて 池田章・妻 隆子

今から約20年前のこと、夫は41歳で、交通事故を起こし、重度の障害者になってしまいました。幸いにも、命はとり止め、(私にとっては)奇跡的に回復し、主夫業をこなし安定した在宅生活を続けていました。

ところが、平成16年転倒して大腿骨頸部骨折してしまい、そこから本格的な介護が始まりました。全身の機能低下と相まって、誤嚥性肺炎を繰り返すため、平成19年から胃ろうを造設して現在に至っています。

私はずっとフルタイムで働いていますので、日に2回訪問看護師さんにお世話になっています。栄養剤の注入、健康状態のチェック、リハビリ指導などをしていただいています。

お陰様で、以前あれほど入退院を繰り返していましたのに、ここ一年半あまり安定して在宅生活を継続しています。

訪問回数が多いため、現在3ヶ所のステーションにお世話になっています。皆さんのお陰で、家族ではできないことをカバーしていただけます。家事や雑用でつついとおろそかになりがちなことが、毎日きちんとできるのですから、本当に有難い存在です。

タイムリーな情報提供、医学的な判断は大きな安心につながります。いろいろな処置に便利なグッズから、吸引機・吸入器等の医療機器、効果的なトロミ剤の使い方などの情報等々、ご紹介いただきました。また、夫が毎回体温・血圧・酸素濃度等をメールで報告してくれましたので、安心して働けます。連絡ノートには、詳しく記録してくださっていますので、色々なことが確認でき、安心して一日を終えることが出来ます。そして、一番有難いのは、介護者である私の頑張りを認め、温かく見守り、そっと支えてくださっていることです。

ともすれば、夫が発熱して入院するたびに、無意識のうち

に自分を責めてしまい、落ち込むのです。友人等に「風邪を引かないように気をつけて」などと言われると、「これ以上何をすればいいの?!」と思ってしまいます。何でもない挨拶代わりの言葉なのですが、介護者はそれくらい、デリケートで傷つきやすくなっていることを理解して欲しいものです。

以前、介護のために仕事を辞めようと思ったことがありました。その時「あなたが仕事を辞めたからといってご主人が肺炎にならないとは限りません。頑張ってください」と言ってくくださった当事の主治医の言葉は、今も支えとなっています。仕事に行っている間は仕事に集中し、介護のことは忘れてリフレッシュできます。家に帰れば、また、精一杯できる限りのことをしようと前向きな気持ちになります。私にとっては、これがバランスのとれた距離だと感じています。

長年付き合ってきて思うことですが、今、夫が元気でいられるのは、やはり彼の生命力だと思います。もともと健康で、持病もないことが大きいと思います。老々介護は不安ですが、彼の生命力を信じて、これからも一緒に生きて行こうと思っています。

訪問看護という仕事は、いろいろな意味で重労働だと思います。障害や病を抱えている人とその家族を支えるのですから、体も神経も使いますし、厄介なこととも付き合わなければいけないこともあることでしょう。現場では、人手も不足していると言われます。ご自分の健康管理も簡単ではないと思います。でも、看護の仕事が好きで、天職と感じている人が頑張っているから、私たちが安心して暮らせているのです。私も同じ看護職として、訪問看護師の皆さんに、精一杯のエールを送りたいと思います。

皆様、今後とも、どうかよろしくお祈りします。

「潜在的介護力」

ももたろう往診クリニック 小森 栄作

平成22年4月に在宅医療に特化したクリニックを始めてもうすぐ2年になろうとしています。数多くの患者さんの診療に携わる中で在宅のおもしろさのひとつと感じていることは、患者さんの家族が本来持っている潜在的な介護力が在宅チームの関わりの中で次第に引き出されてくる点です。退院前カンファレンスの時には「自信ないので家でみられなくなったら病院へお願いしたい」と言われていた家族が、吸痰やインスリンや栄養など必要な手技を習得していつの間にか介護のエキスパートみたいに慣れた手順でいろいろされるようになっていくのを目にすることがあります。その陰には診療で私が行くよりも多くの時間患者さんや家族に接して、患者さん目線でひとつひとつ指導援助されている訪問看護の皆さんの尽力があることは言うまでもありません。家族の介護の上達を褒めてあげるときにはいつも、関わってくれる訪問看護師の皆さんの看護力を賞賛しています。



「浮腫療法」に参加して

研修委員 訪問看護ステーションあゆみ 管理者 篠井 恵理子



平成23年10月30日(日) 落合病院にて、「浮腫療法」の研修会がありました。

講師には光生病院の理学療法士 三宅一正先生、他3名のリンパ浮腫療法チームのメンバーの方々を迎え、出席者59名での研修となりました。

午前中は基礎知識として解剖生理のお話があり、午後からは、マッサージ、弾性ストッキングのデモや、包帯法の実技がありました。

解剖生理を学ぶことで、リンパ浮腫の原理がわかり実技と結びついて勉強になりました。

実技では、実際にマッサージの力加減など教わることで、自分の手技確認ができ、今まででは強すぎた事が分かりました。

浮腫で苦しんでおられる方は多いですが、相談できる窓口が少ないのが現状の様です。

私たちがしっかりと浮腫を理解し、ケアを実践していくことが必要だと感じました。



おちあい訪問看護ステーション
管理者 綱島幸枝



平成23年10月30日、落合病院にて「浮腫療法」について講義と実技をしていただきました。

講義では、リンパ管系の解剖と生理について詳しく教えていただきました。リンパ管について知ること、リンパ浮腫ケアに生かしていくことができると思いました。午後からの実技では、自宅で行えるセルフリンパドレナージ、訪問で行える圧迫療法・弾性包帯デモンストレーションについて、グループで指導していただきました。リンパドレナージの基本手技は皮膚に手のひらを密着させ、円を描いて皮膚をずらすように手を動かしていき、強くする必要はなく、最小限の力で動かしていくことを学びました。セルフドレナージ指導として、日常生活の中にとり入れたり、全て手順通りではなく簡略化してでも自分で続けられる方法を身につけていく大切さを知りました。

講義・実技とも内容が詳細で、すべてを把握するには、時間が足りない思いで、今後も定期的に浮腫についての勉強に参加し、現場で活かしていきたいと思いました。

「訪問看護サミット2011に参加して」

勝央町訪問看護ステーションのぞみ 管理者 中塚直子

平成23年11月23日、前日の集中講義に続き、訪問看護サミットに参加させていただきました。特別講演講師の佐々木恒夫氏による「仕事も家族も決してあきらめない。」では、トップ職にありながら、自閉症とうつ病のご家族の介護も続けられた佐々木氏の、限られた時間の活用や、心のあり様によって無理に見える大きな障害でも克服できると、教えられ背筋に芯を入れられた思いでした。

続いて、厚生労働省老健局長、宮島俊彦氏による「地域包括ケアの実現に向けて」の講演では、地域複合型のチームケアの推進や痰の吸引等の医療処置の方向性の説明がありました。現在以上にマンパワーが必要になり、その中でも看護職の指導的推進力が大切になると感じました。

「エンゼルメイク」～エンゼルメイクの実際について学ぶ～ に参加して

「ご家族に寄り添う看取りのために」
—在宅で求められるエンゼルケアとは—

研修委員 平井淑子

平成23年12月10日、岡山県生涯学習センターに株式会社プリエール湯灌士大垣麻里先生をお招きし、エンゼルメイクについて講義と実技指導をしていただきました。

私達看護師がエンゼルケアを行うのは死後数時間以内のことが多いですが、その後ご遺体の変化(浮腫や腐敗等)により、点滴痕等から多量に出血したり、胃瘻や褥瘡から体液が出て着物を汚してしまうことがあることを知りました。目を閉じる方法や顎の閉じ方、点滴痕やカテーテル類抜去後の処置等について具体的に教えていただきました。

実技では、「女性」「男性」「黄疸が強い場合」のメイクを受講生同士で実際に行い、「汚れを落として保湿する」ことを基本に、ファンデーションを混ぜてその方本来の肌色に合わせた色を作ること、チークやリップで血色を良くみせる方法等を学びました。

ご家族のご希望を伺い、その思いに添いながら、全身の整容やお化粧品を通じてご本人らしさを再現していく課程で、ご家族が故人との思い出を語り、偲び、死を認識し受け入れていく場を提供することが大切であると再認識しました。



訪問看護推進事業

「医療機関・訪問看護ステーションに勤務する看護師の相互研修に参加して」

井原市民病院 西江加代子

患者が安心して在宅療養に移行できるよう、退院支援や地域連携に必要な知識を習得し看・看連携及び継続看護の重要性を学ぶ目的で、平成23年10月6日から岡山で行われた集合研修と訪問看護ステーションへの実習研修へ参加させて頂きました。4日間の集合研修では主に、千葉大学大学院看護学研究科・長江浩子先生のご指導のもとに各医療施設での「退院困難ケース」や「倫理的な課題」などグループに別れて討議し活発な意見交換をおこない、それらを通して退院支援の方法について学習させて頂きました。また、訪問看護ステーション実習では、「訪問看護ステーションくじば」で3日間の研修をさせて頂きました。医療機関での勤務しか経験のない私でしたが、さまざまなケースの現場に同行させて頂き、患者・家族の在宅療養を支えているのは訪問看護だと実感する事ができました。訪問看護師がそれぞれ自己の看護に責任を持ち、患者・家族の生活のリズムに合わせて工夫して看護ケアを提供されていました。在宅看護の現状を知ることで、私にとって貴重な研修となりました。

療養の場を病院から在宅へと転換がますます進む中、患者・家族が安心して在宅での療養が継続できるように、この研修で学んだ事を生かし退院支援や継続看護に役立てていきたいと思っております。



アドバイザー派遣事業を活用して



訪問看護ステーションみのり倉敷 管理者 野田育美

当方は医療機関に付属していない小規模のステーションのため、研修参加も儘ならず、医療面等の新しい情報を入手することも容易ではありません。そこで、平成22年10月ターミナルケアのアドバイザー派遣を利用させて頂きました。

アドバイザーとして緩和ケア認定看護師の藤田様に来て頂き、独居のターミナルの方との関わりの中で困っていることや疑問に思っていたこと、またその方に限定せず疼痛緩和についてなど、色々質問させて頂きました。

その方は残念ながら入院先にて亡くなられたため、自分達が行ったことの確認が主になりましたが、今後同様なケースで参考にさせて頂ける内容で、更にコンサルテーション後も不足点を文章化して補って頂き、大変勉強になりました。今後何かあれば相談に乗って下さるとのことで、心強く感じられました。

またぜひ他の疾患のアドバイザーも利用させて頂きたいと思っています。

あさかわ訪問看護ステーション 管理者 澤田久子

平成23年7月1日、12月20日の2回、在宅ケアアドバイザー派遣事業を活用して国立医療センター 脳卒中・リハビリテーション看護 認定看護師 鳥越俊宏先生に指導を受けました。

脳出血・脳梗塞を何度も繰り返され、右半身麻痺・構音障害があり、理解力が乏しくリハビリに消極的で、感情の起伏が激しい利用者様の機能訓練の方法について相談したところ、車椅子座位姿勢での機能訓練や、テーブルで健肢を用いて塗り絵等の作業療法のアドバイスを受けました。その結果、関節可動域拡大し、塗り絵を熱心に行われ、笑顔が増え、離

床の機会・気分転換になっている様子でした。

また第一回・第二回と期間をおいて指導を受けたことにより、第一回目の指導内容が反映された状態を見ていただくことが出来、さらに一歩進んだ指導を受けることが出来ました。参考文献を紹介して下さったり、資料を郵送して下さい、熱心に指導をして下さった鳥越先生には深く感謝しています。

この事業を活用することで、より適切で質の高い看護が提供できたと喜んでます。他のステーションでもこの事業を活用して、看護に活かしていただければと思います。

平成24年度年間研修計画(案)

日程	テーマ/ねらい	場所
7月 (土曜日)	接遇 検討中	岡山
8月18日 (土曜日)	糖尿病患者の看護 糖尿病のセルフケアとその実際 (フットケアを含む)	倉敷
9月9日 (日曜日)	今から始めよう人工呼吸器ケア 実際の呼吸器に触れて呼吸器の使用方法を学ぶ	岡山
10月 (日曜日)	タクティールケア 認知症ケアや緩和ケアについての基礎的な知識 とタクティールについて学ぶ	津山 中央病院
11月17日 (土曜日)	在宅でできるリハビリテーション 在宅でできる効果的なリハビリ方法を学び看護 の実際にかかす	岡山
1月26日 (土曜日)	訪問看護における看護倫理、クレーム対応 訪問看護におけるクレーム対応について学ぶ	倉敷

※研修は、アンケートを参考に、委員会にて計画させていただいております。講師・会場等については、検討中です。都合により、日程内容等変更がある場合がございますので、ご容赦ください。

平成23年度管理者会議について

平成24年3月10日(土)に岡山県看護協会4階マスカットホールにて開催いたします。

今、医療看護の業界で大変話題の、テルモ株式会社取締役副社長執行役員 松村啓史先生より、『看護は経営』についてご講演いただきます。

管理者会議となっておりますが、スタッフの方々もぜひ、お誘いあわせの上、ご参加ください。

書籍紹介



「看護管理者のための幸せ交渉術」
交渉上手は得をする!交渉で幸せの種をもらおう

出版:メディカ出版
著者:松村啓史
価格:2,100円(税込)
内容:交渉って何? 日常での交渉
看護業務での交渉 患者さん自身との交渉 他



「ナースに学ぶときめきの経営学」
平成22年度改定版

出版:メディカ出版
著者:松村啓史
価格:2,730円(税込)
内容:病院経営に大切なことは、すべて
ナースに教えてくれる。
ナースと「経営の神様」
ドラッカーには、こんなにも多くの
共通点があった



「エンゼルケアのエビデンス!」
死に立ち会うとき、できること」

出版:株式会社素敬
著者:上野宗則
価格:2,310円(税込)
内容:エンゼルケアってなんだ?
エンゼルケア後(退院後)の状況を
データ化。
考え方~体験記~具体的な手順
や配慮を収録。
思いに寄り添うケアのために

編集後記

未曾有の災害に見舞われ日本中が悲しみに沈んだ一年が終わり、新しい年を迎えることができました。今年は何事もなく、平和にすぎること祈るばかりです。昨年末より寒さも厳しくなり、体調を崩しておられる方も多いのではないのでしょうか。地域の住民の健康を支える看護師さんたちが今年も元気で活躍できるよう、お互いに支えあって頑張りましょう。